



レポート



イベントでは、四季折々の写真展示も楽しみました。



ウォーキングイベントで森の魅力を再発見

10月15日、鳩山町と東松山市の協働で行われた「わくわくポイント(歩数)ウォーキング」の舞台となったのは、岩殿観音の南西に広がる石坂の森と市民の森です。

当日は、参加者61人が万歩計とともに森の中を散策。コースの途中で森の中で撮影された動植物の写真を見たり、ポストカードをもらったりしました。また、見晴らしのよい場所で景色を堪能しながら森の歴史について学んだり、リースづくりやまつぼっくりを使った工作を体験したりしました。ゴール時に、自分で設定した歩数と実数を照らし合わせ、差が少ない上位5名の方に景品がプレゼントされました。



リースづくりのコーナーは大人気となりました。

参加者からは、「自然の中でのウォーキングでストレス解消になった」「自然を楽しみ、ゆっくりしたのは久しぶりだった」「風景を楽しみながらリラクゼーションになった」「日頃ウォーキングをしないので、心地良い疲れが気持ちよかった」「こんなにいい場所があることを知らなかった」などの声があがっていました。

問合せ：町北部地域活性化推進室 ☎ 296-7887

「身近な森」としてロケ地にも

11月8日、地域の様々な情報を収集し放送しているケーブルテレビのJ:COMが、川越近郊の自然豊かなウォーキング場所として、石坂の森を舞台に番組収録を行いました。出演者はスタッフとともに森の中を1時間ほど散策。途中でまつぼっくりを拾ったり、見晴らしの丘で景色を見ながら昼食を食べたりしました。

出演者は、「人の手を加えられ過ぎていない、自然のままに近い所がいい」「思わず写真を撮りたくなる風景」「適度な起伏があって眺めがいい」などと、気軽に楽しめる森の散策を楽しんでいました。



番組は、11月26日～12月2日の期間で放送されました。

森で「こども自然体験教室」や「ホテル・植物観察会」などを実施しています。

多様な生物との出会い

石坂の森は、生物多様性の保全をテーマに整備が進められ、NPO法人やボランティアの方々により維持管理や環境保全が行われています。そのため、数十種類の絶滅危惧種も含め、現在千を超える種類の動植物の生息が確認されています。各種機関による生態系調査も定期的に行われている石坂の森は、多様な動植物との出会いという、貴重な体験を私たちにもたらしてくれています。

特集

自然の恵みと共に生きる

～鳩山で感じる 森と大地からの贈り物～

町内に点在する森林や田畑。森林浴は体と心に良い影響があるとされており、田畑は私たちが口にする食材が育つ場所です。

今月号は、誰もが気軽に散策できる石坂の森と、町内で行われた収穫体験を通じて、森と大地がもたらしてくれる自然の恵みについて考えます。

森の恵み

健康づくりや自然体験の場

みんなの里山として親しまれている石坂の森。その四季折々の景色で、私たちに気持ちの良い散策、動植物の観察という機会を与えてくれます。また、様々なイベントや環境学習のフィールドとしても活用されています。

石坂の森は、東松山市の市民の森と隣接していることから、平成26年度から「石坂の森・市民の森有効一体活用事業」(協働プロジェクト)を実施し、年に1回ウォーキングイベントを開催しています。

また、自然と触れ合える場所として、教育の場としても活用されています。付近にある山村学園短期大学では、両森で学生が課外活動を行い、環境保全などの活動を行うNPO法人はとやま環境フォーラムでは、石坂の

気軽な散策、身近な里山を支える人々



「NPO法人里山環境プロジェクト・はとやま」の皆さん

石坂の森は、町が平成16年3月に日本新都市開発(株)の特別清算に伴い取得した、山村学園短期大学西側の約40畝の山林です。平成18年度から、県の補助制度を活用し、自然環境を生かした活動広場や遊歩道、駐車場を整備したほか、標柱・案内板を設置してきました。

平成20年10月には、彩の国みどりの基金を活用し、枯損木の伐採や下草刈りなどの環境整備



が行われ、木漏れ日の差す明るい森へと変化しました。

誰でも気軽に散策できるように森を管理・保全しているのがNPO法人里山環境プロジェクト・はとやまや、ボランティアの方々です。10月22日にも、皆さんが下草刈り作業を行いました。(写真右)

自然の恵みを受け取れる環境を次世代につなぐため、皆さんもこうした活動に参加してみませんか。

自然の恵み拡大へ

菱沼再生水田でも 稲刈り作業

10月22日、菱沼谷津田再生ネットワーク(事務局：町北部地域活性化推進室)の皆さんによる、菱沼再生水田の稲刈り作業が行われました。6月3日の田植えから半年、定期的な水管理作業等を重ね待ちに待った稲刈りの日です。空高い秋空の下、頭を垂れた古代米が黄金色に輝き秋の風景をかもし出しています。

皆さんは、田植えは勿論、稲刈りも未体験の方が多かったようですが、バインダー(稲刈機)を使って順番に作業を行っている光景は、立派な米農家のように見えました。刈り取った稲は天日干ししましたが、その重さに自然の恵みを実感したことではないでしょうか。



バインダーを使って古代米の稲を刈り取る皆さん

休耕田を活用し里山風景を再生させる取り組みは、ネットワークとしても初の試み。全町公園化構想の拠点のひとつである菱沼周辺(赤沼地区)を、来年以降も古代米が彩ってくれることでしょう。

作付けにあたり、ご指導等をいただいた周辺農家や水利組合の皆さん、本当にありがとうございました。

「もち米づくり栽培教室」で収穫されたもち米。参加者は正月にお餅にしたり、近所におすそ分けしたりするのを楽しみにしていました。



旬の食材は大地からの贈り物
11月13日に農村公園で行われた「第18回いも煮会」(町産業振興課主催)では、参加者が体験農園で採れたサトイモやニンジンなどを使ったもち煮や、同農園産のもち米を使ったお餅を味わいました。
このいも煮会で、食材を料理したのは、ボランティアの方々です。様々な人たちの努力や関わり、そして自然の力により口に入る食べ物に感謝し、今日からは気持ちを込めて「いただきます」と言いたいですね。



旬の食材をたくさん味わう「いも煮会」の参加者。今年も「いただきます」「おいしい」の声が会場内に響きました。



自然の恵みに感謝し、地産地消に 取り組み、農作物のロス減らそう

今年のもち米づくり栽培教室は、9月の大型台風などの影響で、収穫量は昨年にならぬ結果となりました。自然の恵みは、天候など、同じ自然の変化の影響を受けます。だからこそ、そのありがたみが増すものです。

また、食べ物は、元をたどれば大地や海で作られるものですが、消費されない収穫物は、最後には廃棄されてしまいます。それは鳩山町の自然からの恵みが無駄になるという悲しい結末です。

鳩山産の農作物を積極的に購入したり、そうした作物を積極的に使用している店舗等を利用したりすることは、鳩山の「地産地消」を促進し、貴重な農作物のロスを減らすことにつながります。

皆さんも自然の恵みに感謝し、その気持ちを行動に移すため、「地産地消」について考え、積極的に鳩山産の農産物を消費してみませんか。



大地の恵み

実りの秋と呼ばれるように、秋は様々な作物の収穫時期を迎えます。田んぼや畑で、この収穫物に直接触れることで、大地の恵みをより実感することが出来ます。普段食べている食べ物、誰かの手によって作られていること、長い月日を経て大地で育まれていることを知る機会は、とても貴重な体験です。

また、収穫体験は、その場で巡り合う方々との交流の場ともなります。大地の恵みがもたらしてくれる大きな副産物ともいえます。

町内各地で収穫体験を実施

10月20日、高野倉地内の圃場で、大東文化大学 国際関係学部「大豆のアジア学」研究班の学生らが、亀井小学校3年生と、ときがわ町萩ヶ丘小学校3〜6年生を招いて枝豆収穫体験を行いました。
収穫した枝豆は、高野倉の花ノ木営農組合の方々から指導を受け、同大学が実施する平成28年度中山間地域ふるさと事業調査研究事業(中山間「ふるさと支援隊」)の一環で、学生



高野倉地内で行われた「枝豆収穫体験」では、収穫体験を通じて、「世代や地域を超えた交流」をもたらしてくれました。

収穫で知る、“食の産まれる”場所

らが自ら育てたものです。当日は枝豆500グラムのピタリ賞を目指し、ゲーム要素を取り入れながら楽しく収穫しました。
10月25日には、農村公園の体験農園で「もち米づくり栽培教室」(町産業振興課主催)の脱穀体験が行われました。
もち米は、6月の中旬に参加者自身が苗を植え付け、10月に入り、ようやく実った稲を刈り取り、稲わらで束にし、天日干したものです。そうした工程を経て、ようやく収穫した喜びはひとしおのようでした。



農村公園内で行われた「もち米づくり栽培教室」で脱穀作業に汗を流す参加者

関連 コラム 町内の農家数

平成27年の農林業センサス(平成27年2月1日現在の状況)の結果によると、町内の総農家数は389戸。うち販売農家数は202戸で、町内全戸数の約3.4%、10年前の同調査結果と比べると約4割減少しています。

現在、鳩山産の農産物は特産品販売施設「鳩豆工房の花」(熊井地内)やJA埼玉中央鳩山農産物直売所(石坂地内)のほか、町内の無人直売所や各種販売イベント等で購入することができます。

なお、鳩山産の農産物を多く扱うJA埼玉中央鳩山農産物直売所では、平成27年度の地場産商品(米を除く)の販売額は、総販売額の57%となっています。



旬の鳩山産農産物が集まるJA埼玉中央鳩山農産物直売所には、毎朝多くの方が訪れます。